

フォーラム

特定非営利活動法人 奈良21世紀フォーラム会報

2018年
新春号
No.32

ニュース

◆平成29年実施の主な事業

- 1月24日 猿古梅園会社見学会を開催
- 3月22日 聖徳太子の夢と失意の斑鳩の里、謎解き散歩
- 5月28日 春日大社奉納蹴鞠の実施
- 6月 9日 幻の天理軽便鉄道跡をたどる
- 6月17日 平成29年度通常総会の開催
- 6月22日 JOSKASカップ万葉蹴鞠大会に協力

《以上 会報 No.31で報告》

- 10月26日 井上内親王と他戸親王終焉の地五條を訪ねる
- 11月11日 第8回大仏書道大会の開催
- ～12日
- 11月17日 歴史と文化に彩られた紅葉の吉野郡川上村を訪ねる

奈良県企業人列伝の冊子発行 《1刊》



年頭のご挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平成30年戊戌年における会員各位のご清祥を心よりお祈り申し上げます

昨年の我が国経済は大手企業を中心に業績が好調で、株価の回復、為替の安定等、景気の拡大は戦後2番目の「いざなぎ景気」を超えるところまで改善してきました。

一方、海外では、1月にアメリカでトランプ大統領が就任、世界中で自国第一主義が増加傾向にあるなかで、また北朝鮮のミサイル発射など世界情勢を一変させるような懸念事項もあり、先行きが混沌とした状況にあります。

奈良県におきましては、第32回国民文化祭・なら2017と第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会が一体開催され、日本文化のはじまりの地・奈良の価値を全国に発信し、全国的な注目を集めました。

奈良21世紀フォーラムでは、各位のご尽力のお陰で、万葉蹴鞠の復元・保存事業においては平成27年、28年の春日大社第60次式年造替奉祝奉納蹴鞠（春季、秋季の年2回）に引き続き、昨年には春日大社奉納蹴鞠（春季）として実施致しました。書の文化伝承事業では第8回目となる大仏書道大会を東大寺大仏殿西回廊に於いて開催、その他、奈良の歴史文化資源の探訪、奈良県企业文化の調査紹介、森を守る活動支援事業など多方面にわたる事業を推進致しました。

当法人は、今まで多くの会員の皆さん、ボランティアの方々のご協力、ご支援により日本の歴史・文化の発祥の地である奈良の地において意義ある事業を開催して参りました。本年は、会員の増強、財政的な基盤の確立に努め、各事業の更なる充実、発展を推進して参りたいと存じます。会員皆様の変わらぬご理解とご支援並びに各事業への積極的なご参加をお願い申し上げます。



理事長 植野康夫

(2018年1月吉日)

【平成29年9月から12月に実施した事業】

1. 書の文化の伝承

◎第8回大仏書道大会「書くことは楽しい in 奈良」を開催

実施日 平成29年11月11日（土）～12日（日）

会場 東大寺大仏殿西回廊

11月11日（土）から12日（日）の2日間、「大仏書道大会」の書道展を開催し、12日（日）は表彰式・席書会・大仏さまへの作品奉納を行いました。

書の可能性を感じさせるような作品、単なる教科書的な技術だけではなく、自由な感性、創造性や味わい深さなども加味し光をあてる稀有な大会として、全国から応募をいただいています。平城遷都1300年を記念して始まり、第8回目を迎えました。



審査会風景（朝日新聞社奈良支局）

今回も63の高校・大学・個人から1575点の応募があり、学生書道界に定着してきました。森本公誠・東大寺長老（当フォーラム理事・特別顧問）を審査委員長に迎え、奈良県教育委員会の書道担当職員、高校や大学の書道教員に今回も審査に携わっていただき、7点の特別賞と93点の入賞作品を選定しました。

また、奨励賞に新津南高等学校（新潟県）、富山商業高等学校（富山県）の2校がそれぞれ受賞しました。

受賞作品100点の作品を大仏殿西回廊に展示しました。地元奈良はもちろんのこと、全国各地・海外からの参拝客、観光客の方にも観覧していただき、約1250名の来場を得ました。2日目は席書会も開催し、森本長老の講話の後、高校生・大学生約20名が華厳唯心偈（百字心経）の写経と自由な作品創作を行いました。

その後、清水公仁さん・大仏殿詰のご案内で、大仏さまの台座へ上がって作品を奉納しました。以下写真でご紹介します。



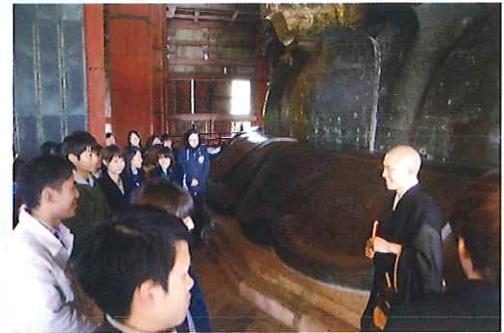
展覧会の様子



席書会の前に森本長老から表彰状が授与された



席書会の様子



清水さん・大仏殿詰のご案内で作品を奉納

☆特別賞 7点☆

奈良県知事賞



朝日新聞社賞



奈良県教育長賞



奈良市長賞



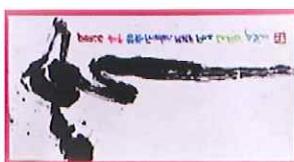
奈良市教育長賞



東大寺賞



奈良 21世紀フォーラム理事長賞



受付風景

○奈良県知事賞 「君と共に」

岡 真実さん（大阪府立今宮高校）

○奈良県教育長賞 「家族」

池添咲季さん（福岡県立糸島高校）

○奈良市長賞 「百花繚乱」

富澤亜優さん（札幌市立山の手養護学校）

○奈良市教育長賞 「大仏徳」

西村知敏さん（東大寺学園高等学校）

○東大寺賞 「輪」

工藤夏実さん（埼玉県立与野高校）

○朝日新聞社賞 「六道」

柏村友佳さん（奈良学園大学 奈良文化女子短期大学部）

○奈良 21世紀フォーラム理事長賞 「和」

菅沼里彩さん（千葉県柏市在住）



森本長老の講話に耳を傾ける

2. 「奈良の歴史文化資源」の探訪

◎井上内親王と他戸親王終焉の地五條を訪ねる

実施日 平成29年10月26日(木)

参加者 18名

いかみ（いのえ）

2017年は、井上内親王生誕1300年にあたり、その終焉の地である五條市を訪ねた。

井上内親王は第45代聖武天皇の長女として717(養老元)年に生まれ、母は県犬養広刀自。不破内親王と安積親王の同母姉。のちに2回も天皇になった異母妹である称徳(孝謙)天皇とはまったく違った運命をたどった悲運の人である。



井上院にて



聖神社

いつきのみこ
5歳で斎王に選ばれ、11歳から30歳までの19年間奉任し、数年後、58歳の白壁王と結婚。その後、酒人内親王と、45歳のときに他戸親王を生む。9年後異母妹の称徳天皇の崩御の後を受けて夫の白壁王が62歳で奈良朝最後の第49代光仁天皇に即位する。井上内親王は54歳で皇后になり、続いて他戸親王11歳も皇太子になった。

このことは、一見万事うまく行ったかにみえたが、悲運の影はすでに忍び寄りつつあった。皇位継承をめぐる醜い争いの中、他戸親王の腹違いの兄・山部親王(のちの桓武天皇)を皇位につけようと悪知恵を働くかせる藤原百川らの陰謀のため、母と子はともにその位を剥奪され、都を追われ幽閉された地が大和国宇智郡(現五條市)だった。一年半後、内親王は59歳、他戸親王15歳という若さで、775(宝亀6)年、同じ日に亡くなった。

二人の終焉の地を訪ねる一行は貸切バスで五條市に入る。先ずはJR五条駅近くのゆかりの地「井上院」へ。そして「聖神社」へと歩く。いまは小さな祠でしかないこの神社あたりは、井上内親王がいわれのない罪で幽閉された場所といわれ、官職をとり上げられた人の館があったあたりらしい。次に、昼から訪ねる御靈神社のお旅所となる恵美須神社を経由して、江戸時代から昭和にかけての町屋が立ち並ぶ「新町通り」を散策。



五條新町通りを散策

2カ所の館を見学し、説明を受ける。場所を昼食会場に移し、食事後講師から今回のテーマである井上内親王についてと、御靈神社が五條市内に23（現在22）もある理由などについての話などをうかがう。

昼からの行程は2つの御靈神社と井上内親王陵と他戸親王墓を巡ることがメインになる。

御靈神社本宮では本殿敷地内に入り、藤井利夫宮司から建物について、また装飾されている彫り物についてな

どユーモアを交えた説明を受けた。さらに神社近くの民家の庭にある三重塔の礎石（御靈本宮と同時期創建の靈安寺跡）をご案内いただき、みんなは興味深く聞き入った。

井上内親王陵は、内親王の祟りを恐れ改葬されただけあって立派なものだった。この場所から北方向へ、たわわに実って色づいた柿畠の中を通り抜け、5分ほどで他戸親王墓へ着く。ここからは五條市街が一望でき、母墓とは、「お母さ～ん」と呼べば届く距離にあり、死してお二人は何を語っておられるのかと思うと、胸が熱くなった。最後は、稻穂が金色に輝く田畠の道を抜け、兄思いの弟（井上内親王は都を追われるとき、光仁天皇の子を身籠って



火雷神社境内

いたと伝わる）が、母と兄の怨みを晴らすため、雷神となって祀られてという「火雷神社」にお参りし、あらためて悲運な二人に思いを馳せた。天候も幸いしてか、「美しい景色も見ることができ、充実した一日だった」の声も。一部の人は、五條市の特産物である柿を手に、夕刻バスは五條市を後にした。

(N.N記)



藤井宮司のお話を伺う（御靈神社本宮）

3. 奈良県企業の企業文化、企業風土の調査紹介

◇奈良の風土産業 企業人列伝発刊状況（平成29年1月～12月）

第13号 金橋ホールディングス株式会社

社長 守金眞滋（ダイヤ製薬株式会社 前会長）

（平成29年3月30日発行）

※在庫が少々あります。希望者にお分けいたします。（実費）

4. 「吉野川の源流の水源地の森を守る活動」支援

◎歴史と文化に彩られた紅葉の吉野郡川上村を訪ねる

実施日 平成29年11月17日(金)

参加者 17名

午前8時30分、近鉄八木駅に集合し、貸切バスで川上村に向けて出発。

最初に訪れたのは、蜻蛉の滝。あきつの小野スポーツ公園駐車場から徒歩約5分。整備された公園の紅葉した木立を抜け、石段を上がっていくと落差50メートルの見事な滝が現れた。水しぶきを上げる滝をバックに思わず記念撮影となりました。



蜻蛉の滝



森と水の源流館で説明を受ける

まれる水や自然のメッセージを感じてもらう「源流学」と名づけた取組みが行われています。大迫力のスクリーン映像を視聴し水源地の森を体感。同館の成瀬匡章さんの案内でジオラマや展示物を見学、水源地の森を守る活動についてご説明を頂き理解を深めることができました。

昼食は、老舗旅館朝日館で郷土食豊かな昼食を頂き、食後におかみさんから、かつて宿場町であった柏木集落の様子などのお話を伺いました。

丹生川上神社上社では、正式参拝を行い、神社の縁起などについて大変興味深いお話を望月康磨宮司様から伺うことができました。

匠の聚では、彫刻、陶芸、日本画などのアーティストが暮らしながら創作活動を行っており、同村出身画家・故小西保文氏のアトリエ記念館や工房室などを見学しました。

帰路、大滝付近で多くの方が名物の柿の葉寿司を買い求め、建立された土倉庄三郎翁の銅像を見学、その少し北の吉野川の対岸の鎧掛岩にその功績を称えた文字が刻まれているのを車窓より眺めながら川上村を後にしました。

紅葉の川上村を巡る一日でしたが、まだまだ魅力の尽きない地域でした。次回は趣向を変えた企画で、是非再訪したいと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

山口昌紀さんを偲ぶ

(平成 29 年 12 月 8 日逝去)

奈良 21 世紀フォーラム

理事・特別顧問

堀井 良般



当フォーラム理事会にて

(平成 28 年 6 月 18 日、奈良ロイヤルホテル)

奈良 21 世紀フォーラムを、終始大きな力で支えて頂いた理事・特別顧問の山口昌紀さんを失ってあまりの痛手に言葉もないほどです。

このフォーラムが立ち上がって間もなくの頃、増尾理事のご案内でならまちを歩く企画があった時もジャンパー姿で一日中付き合ってくれました。こよなく奈良を愛する山口さんの心情がよくわかりました。

近鉄という大企業の経営トップの地位にありながら、飾らない人柄で、地位が上っても全く変わることなく一市民のようにみんなに接してくれました。

中学同級生の栗津さん(ろうけつ染め作家)の座敷に集まって時々飲み会をしましたが必ず山口さんも出席してお互い遠慮なくわいわいと盛り上がったものです。

独特の鋭い分析と歯に衣着せぬ直言が懐かしく思い出されます。人情に厚く、歴史や伝統の価値に重きを置く関西財界の重鎮でした。多くの神社仏閣の役員、財界での役職のほか、文楽協会や歴史街道協議会の会長をつとめ、鉄道事業は文化事業である、地域の活性化は地域に根差した祭祀や文化芸術などの資産をいかに活かすかにある、日本人の心を守り伝えようとの信念で力強くリードして頂きました。当フォーラムが取り組んだ平城遷都 1300 年の時の聖武天皇、光明皇后の衣裳復元事業も山口さんの力があればこそ実現したのでした。

私個人にとっても、東京にいた時代からの 30 年以上にわたる得難い親しい友人に先立たれ寂寥の感に堪えません。どんな時でも常に前向きの強気を崩さなかった山口さんの生き方に多くを学びました。

告別式で山口佳恵子夫人が「人生は旅であり、未知の世界へ、これからも心を一つにして一緒に旅してゆく」と述べられた言葉は胸に響きました。山口昌紀さんは私達の心の中でも生き続けています。

2018 年 1 月発行

編集 足立伸之助、中村優造

発行 NPO 法人 奈良二十一世紀フォーラム

〒630-8244 奈良市三条町 511-3 奈良交通第 2 ビル